10月17日のウクライナ情報

安斎育郎

❶「手が届かない」 ウクライナ軍が不満を漏らすロシアの新兵器とは（2023 年 10 月 14 日）

ロシア軍は新型兵器の使用を増やしており、ウクライナ軍は特に無人機（ドローン）や誘導爆弾について不満を訴えている。米紙ウォール・ストリート・ジャーナルが報じている。

「（ウクライナ軍の）兵士らは、特に問題となっているのは無人機だと話した」

ロシアは前線のほか、後方のウクライナ軍集中地帯の両方を攻撃するために、計画および修正モジュールを備えた航空爆弾を使用していることも指摘されている。また、無人機によって、ロシアは敵の装甲車両、要塞、歩兵集団に奇襲攻撃を行うことができる。

さらに、同紙は、ロシア軍の弾薬が不足していないことに注目した。

一方、ウクライナ軍は、十分に準備された陣地に対して攻撃を試みた際、大きな損害を被った。同紙の評価によると、ウクライナ軍の士気は著しく低下したという。

「兵士らは、司令部により、準備の整った防衛線に対して正面攻撃をさせられると不満を漏らしている」と同紙は報じている。

ウクライナ軍は 6 月初めからザポロジエ、ユジノドネツク、アルチェモフスク方面で前進を試みているが、プーチン露大統領が強調したように、ウクライナは戦線のどの区間でもたいした成功は収めていない。プーチン大統領はまた、現在のウクライナの反攻は失速どころか失敗だとも指摘した。

https://sputniknews.jp/20231014/17421352.html

❷露外務省、ロシアに圧力をかける米国を一蹴 「自らを傷つけずに済むとの信念は誤解」（2023 年 10 月 14 日）

国連総会第一委員会の会合で、ロシア代表団の副代表を務めるコンスタンチン・ボロンツォフ露外務省高官は、米国およびその同盟国が、自国を傷つけることなくロシアに圧力をかけることができると信じていることは危険な誤解だと述べた。

ボロンツォフ氏によると、現在、国際的な安全保障状況は危険なレベルに達している。

同氏は「西側諸国の過ちにより、核保有国を巻き込んだ深刻な危機が欧州の空間で勃発した」とした上で、「西側諸国からは攻撃的なレトリックが繰り返し聞かれる。このような背景から、ロシア当局者は戦略的リスクの増大というテーマついて何度も言及せざるを得なくなった」と指摘した。

ボロンツォフ氏の指摘によれば、「これらの発言は、米国と NATO に対して明白に投影された」という。

また、同氏によれば、ウクライナに反ロシアの橋頭堡を築いた米国と NATO の敵対的な拡大は、ロシアの基本的利益を危険にさらした。

「ロシアに『戦略的敗北』を与えることを宣言し、対立をますます深めることで、西側諸国は直接的な軍事衝突の瀬戸際でバランスを保っている」

コンスタンチン・ボロンツォフ（ロシア外務省高官）

ボロンツォフ氏は「このようにして、核保有国間での武力衝突のリスクが生じる。米国およびその同盟国は、いかなる状況においてもエスカレーションを制御し、自国に害を及ぼすことなくロシアに強力な圧力をかけることができると信じているようだ」と強調。「これは、破滅的な結果をはらんだ最も危険な誤解だ」と述べた。

ボロンツォフ氏の指摘によると、これこそが西側諸国に対するモスクワの警告の本質だという。「これは脅しの言葉ではなく、古典的な抑止の論理だ」と同氏は説明した。

https://sputniknews.jp/20231014/17421352.html

❸「誰もが影響を受ける」 米メディアがイスラエル紛争の悲惨な結果を予測（2023年10月14日）

イスラエルをめぐる状況は、世界経済に深刻な衝撃をもたらすだろう。紛争激化で原油価格が高騰すれば、世界経済の低迷が起こる可能性がある。ブルームバーグがこのように報じている。

「これまでの中東戦争と同様、イスラエルとハマスの対立は世界経済を弱体化させ、さらに多くの国が関与すれば不況の引き金にさえなりかねない」

中東はエネルギー資源の重要な供給国であり、重要な航路でもあることから、この地域での紛争は「世界中に衝撃を巻き起こす可能性がある」と指摘されている。

記事では「世界経済は脆弱だ。ウクライナ紛争で悪化したインフレからは、依然として回復途上にある。産油地域での戦争は再びインフレを加速させるだろう」と補足された。
また筆者は、より安定した中東への期待は「打ち砕かれた」と結論づけた。

https://sputniknews.jp/20231014/17421176.html

❹ウクライナ軍は今何人いるの？

https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A6%E3%82%AF%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%83%8A%E8%BB%8D

正規軍の総兵力は推定 20 万 9000 人（2022 年 1 月時点報道）で、ウクライナ紛争とそれに続く2022 年からのロシアによるウクライナ侵攻で実戦経験を持つ。 最高司令官はウクライナ大統領であり、軍組織のトップはウクライナ軍総司令官（2020 年に参謀総長から総司令官としての職務を分離して新設）が務める。

別の評価（安斎育郎『安斎育郎のウクライナ戦争論』50～51 頁）

アメリカの元軍人のダグラス・マクレガー（元アメリカ大統領顧問）やスコット・リッター（元アメリカ海兵隊情報将校、元国連兵器査察官）らは、ウクライナが直面している厳しい現実を突き付けています。
ダグラス・マクレガー氏はすでに 2023 年 8 月の段階で、「進軍も撤退もできず多数の死者や重傷者を出しているウクライナ軍が部隊単位でロシア軍に降伏している」として、「崩壊の瀬戸際にある」と指摘していました。マクレガー氏は、8 月初旬には、ウクライナ軍の累積戦死者数を約 30 万～35 万人、戦傷者等を合わせた損耗は約 60 万～80 万人に達したと見積もっており、ウクライナ軍の 6 月の「反転攻勢」開始時点の基幹戦力は約 3 万～3.5 万人が NATO 加盟国で訓練された兵員で、総兵力は約 20 個旅団、約 6 万人と見積もっていました。しかし、「反転攻勢」開始以降その約半数が死傷し、7 月中旬には約 10 個旅団、3 万～3.5 万人に減少したとみられているということです。マクレガー氏は、7 月中旬に行なわれた政治評論家マイケル・サヴェジ氏によるインタビューで、ウクライナ軍は「反転攻勢」の失敗で 2 万 6,000 人の兵士を失ったと指摘し、ウクライナ政府はこの数字を必死に隠そうとしていると述べました。そして、「ゼレンスキー氏とその将校たちは絶望に陥っている。彼らはすでに敗北し、自分たちの軍には何も残っていないことを理解している」とも述べました。

ベトナム戦争時のソンミ事件の報道でピューリッツァ賞を受賞したアメリカのジャーナリスト・シーモア・ハーシュ氏は、ウクライナの「反転攻勢」が失敗したため、西欧のメディアはこれについて報じなくなったと述べています。

また、スコット・リッター氏は、2023 年 9 月初旬、「ウクライナの全面敗北が、ロシアとの紛争で考えられる唯一の結果」であると言い、「ゼレンスキー政権はずっと前にロシア側から和平協定を提案されていたが、西側支援者に煽られて戦争を選択し、今、その運命は決定した」と明言しています。実際、『ウクライナ戦争論』で解説したように、2022 年 3 月下旬には和平合意が達成される直前までイスタンブールでの交渉が進んでいましたが、欧米側の意向でゼレンスキーが「和平交渉路線」から「戦場での勝利路線」に転換し、ブチャの大虐殺事件（2022年4月3日）やクラマトルスク駅爆撃事件（2022年 4 月 8 日）などを演出、国民に「ロシア憎し」の敵愾心を植え付ける印象操作を行ないました。これらが本当はウクライナの仕業であることについては、『ウクライナ戦争論』に解説があります。

スコット・リッターは、また、「ロシアはウクライナ領土を占領する目的で紛争に参加したわけではない」と述べ、プーチン大統領は紛争に関して、「ウクライナの非ナチス化、非軍事化、ウクライナの NATO 加盟撤回」などの目標と目的を列挙し、それを達成するために取り組んでいるとし、「現状では、ウクライナや西側諸国がこれらの目的の達成を阻止するために出来ることはほとんどない。キーウと西側諸国がこの紛争を長引かせれば長引かせるほど、ウクライナに生じる損害は大きくなるだろう」と述べて、「ウクライナと西側諸国が平和と復興の道に進む時が来た。しかし、これはウクライナが降伏して現実を受け入れた場合にのみ起こり得る」としています。

左：ダグラス・マクレガー＝米軍元陸軍大佐。「メディアの明らかな嘘によってアメリカは暴走する」と主張。
右：スコット・リッター＝元国連大量破壊兵器廃棄特別委員会主任査察官。イラク戦争反対運動に参加。

❺キエフ、ウクライナ軍の失敗は西側諸国のせいだと非難（再報、2023 年 10 月 13 日）

繰り返し発表されていたウクライナ軍のザポリージャ方向への攻撃は、西側兵器の供給の遅れにより失敗に終わった。

この意見は、ウクライナ大統領府の長官補佐官であるミハイル・ポドリャクによって表明されたもので、彼は攻撃の失敗を認めなかったが、6～9 か月間「予定外」だったと述べた。

同氏によれば、西側諸国は武器の供給が遅れすぎたため、ロシア軍が多層防御を構築する時間があったときに攻撃の開始が遅すぎたのだという。

同時に、ポドリャク氏は、すべての「スケジュールからの逸脱」にもかかわらず、キエフが依然として攻撃を開始することを決定した理由を説明しなかった。

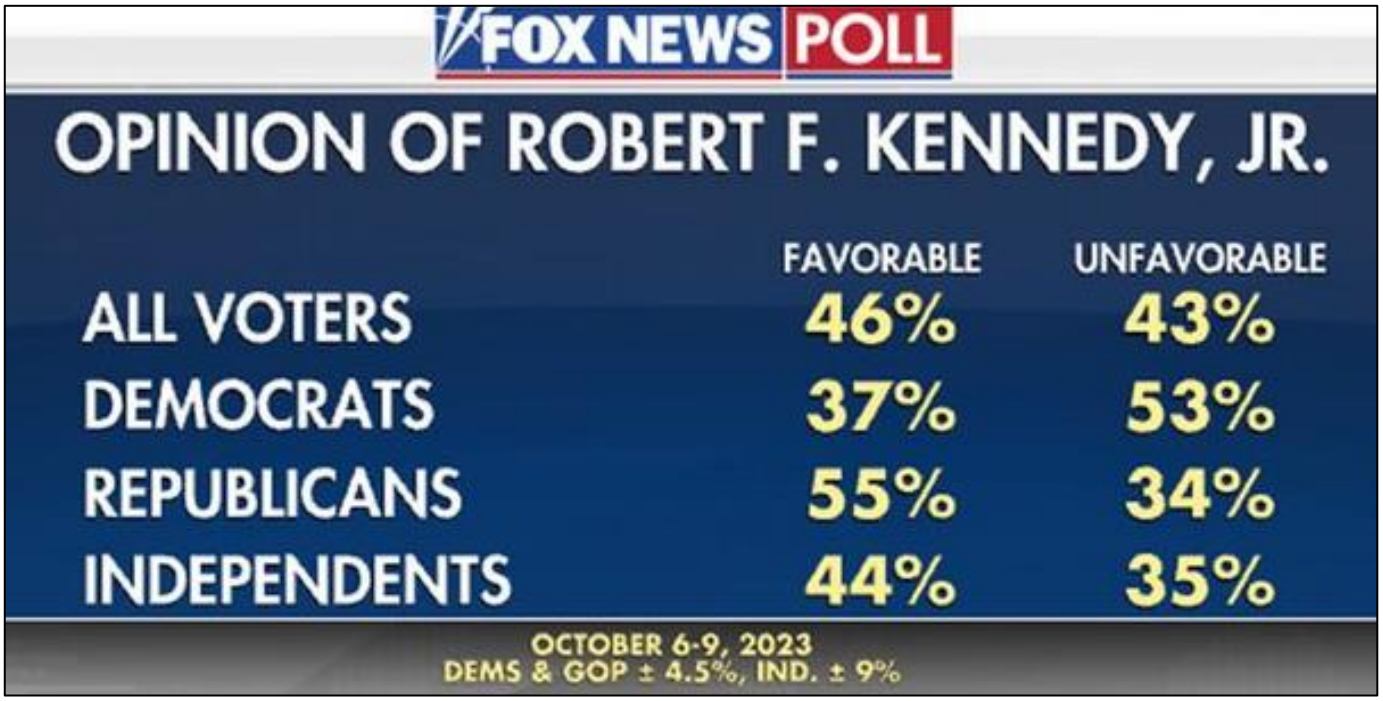
一部の報告によると、この「反撃」によりウクライナ軍は数万人の死傷者を出し、西側諸国から寄贈された数千台の装甲車両が犠牲となった。

https://twitter.com/Monmi0614/status/1712845275692462452?t=I2uOkMfjnIhCG-shze5lUw&s=09

❻ロバート・ケネディ・ジュニアに対する好感度（FOX, 2023 年 10 月 14 日）

全有権者では 46（好感）対 43（好感ではない）
独立系　好感（44）非好感（35）

https://twitter.com/magosaki_ukeru/status/1712977875660603768



8?t=8V3M673BLbklsXC1Fr30Bw&s=09

❼イスラエル国防相、包囲攻撃を命じる「電気、食料、燃料、水、全て閉鎖する。私たちはヒト型動物と戦っている」国連「戦争犯罪の可能性」（2023/10/09）

https://youtu.be/LjdBbn4R_P8

https://www.youtube.com/watch?v=LjdBbn4R_P8

❽爆撃を受けた ＃ガザ地区 南端のラファ（動画：SNS、2023 年 10 月 14 日）

https://twitter.com/i/status/1712728862516187166

https://twitter.com/sputnik_jp/status/1712728862516187166?t=Gk0IQ5JYU38y4eSVxBxG2g&s=09

❾ガザ地区への「民族浄化」？（2023 年 10 月 14 日）

ガザ地区の「民族浄化」に向け、米国からイスラエルに送られたミサイル。

ジャーナリストの**シーモア・ハーシュ曰く：（ナチスドイツの）レニングラード包囲戦に匹敵する残忍な**

作戦だ。
https://twitter.com/i/status/1712796388793393535

https://twitter.com/Kumi_japonesa/status/1712796388793393535?t=UmEnG68ulQPRSoWHlrnH0Q&s=09

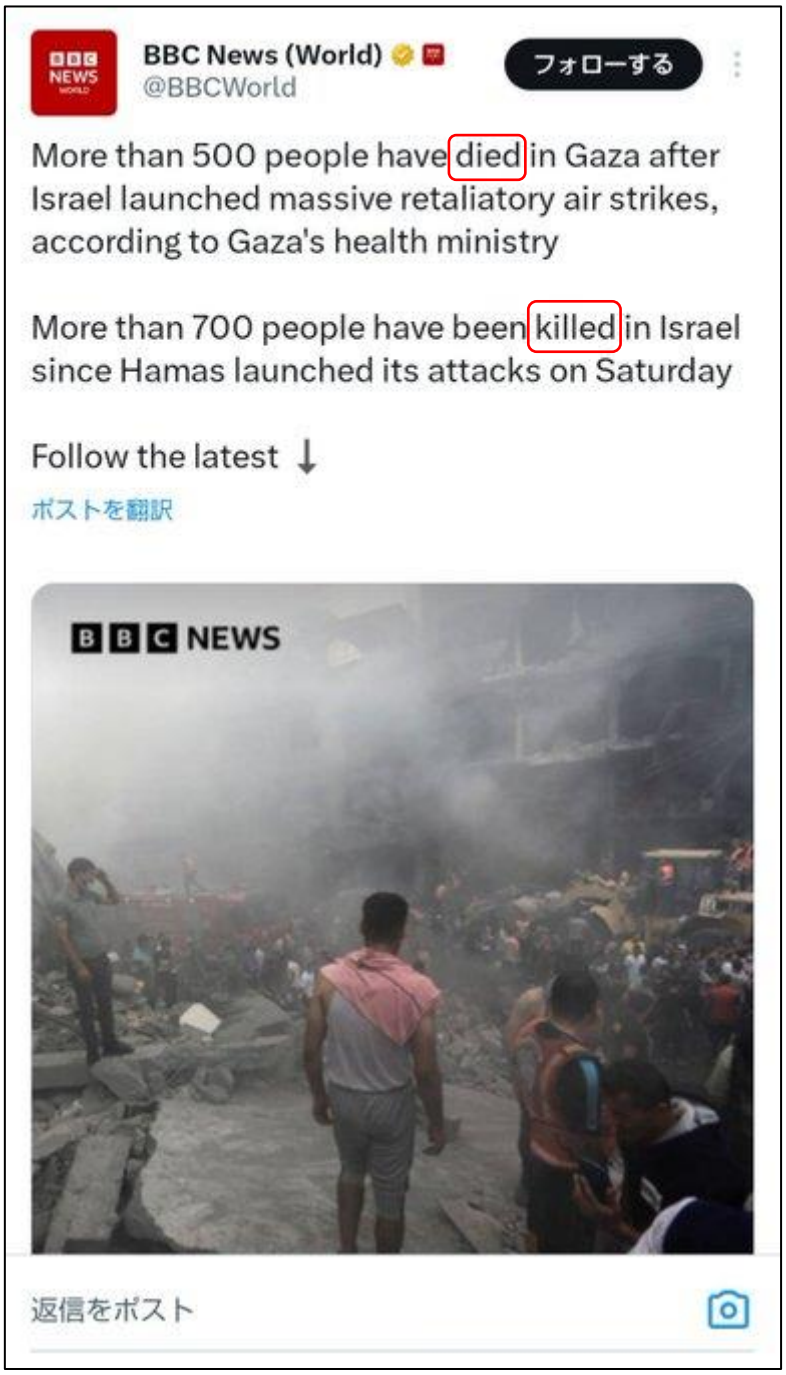
⑩イスラエル軍は、ガザ南部に逃れた女性や子どもたちの車列を爆撃し、70 人が死亡した（2023 年 10 月 14 日）

https://twitter.com/i/status/1712977718017413241

https://twitter.com/narrative_hole/status/1712977718017413241?t=Eoq21OF-ftihGbt1Kf_Pwg&s=09

⓫パレスチナ人「人型動物」―イスラエル国防相（2023 年 10 月 14 日）

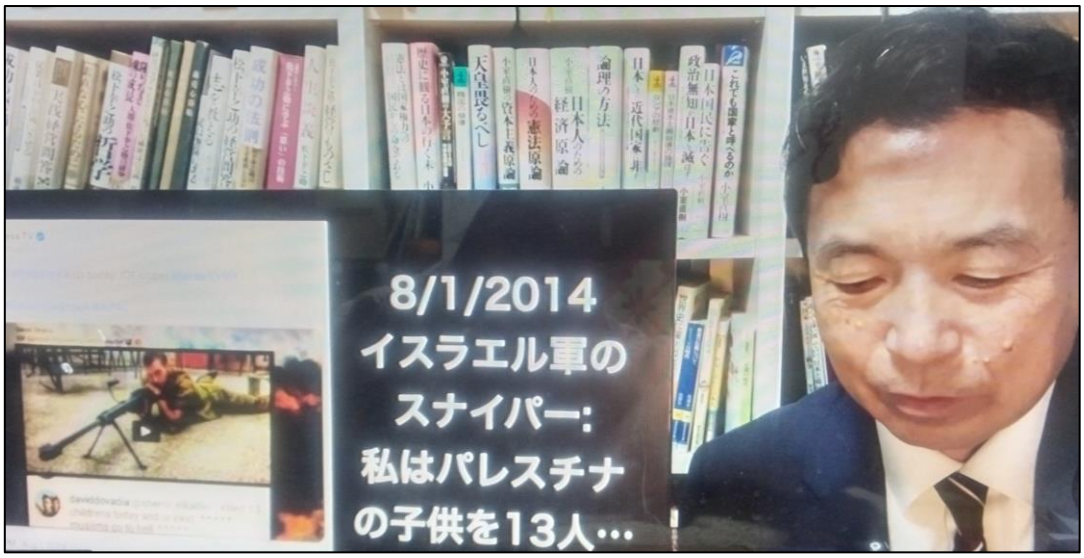
※投稿者コメント：BBC は「X」でパレスチナ人の死を「died」イスラエル人の死を「killed」と使い分けた。イスラエルのガラント国防大臣は声明で「我々は human animals と戦っている」と言ってのけた。こうした露骨な差別意識が、グローバル・サウスの離反に拍車をかける。「名誉白人」意識にすがる日本人よ、目を醒ませ。



⓬挑発はあったのか？（及川幸久、2023 年 10 月 14 日）

※投稿者コメント：ウクライナのネオナチもイスラエルによる残虐行為もEUやNATO及びメディアの目には映らないらしい。

https://youtu.be/20y_DhhGmM8



https://twitter.com/tanuki392001/status/1711519579678388647?t=ctpyK3VgF6xuamlN2VIOdg&s=09